

- 01 所長に就任して  
所長 島川 祐一
  - 03 NEWS  
化学研究所附属 元素科学国際研究センター  
20周年記念シンポジウム  
玉尾皓平名誉教授 文化勲章受章記念講演  
青山卓史教授 金光義彦教授 退職記念講演会
  - 05 研究ハイライト  
微生物機能発現のメカニズム解明と応用  
教授 栗原 達夫
  - 07 若手研究者特集  
Researcher in the spotlight  
特定助教 中川 由佳
  - 08 大学院生特集  
JOIN US, ICR!  
塩田 光司
  - 09 新任教員紹介
  - 11 客員教員紹介
  - 12 碧水会  
会員のひろば  
協岡 正幸、岩清水 千咲
  - 13 受賞者
  - 15 化研の国際活動
  - 16 掲示板
  - 17 研究費 -令和5年度実績-
  - 18 異動者  
計報  
事務部により  
編集後記
- 裏表紙  
化研点描  
ゲノム・情報・医療・ビジネス  
金久 貴

## 所長に就任して 第36代所長 島川 祐一

この4月より、化学研究所の第36代の所長に就任いたしました。化学研究所がこれまでに築き上げてきた伝統と多くの成果を引継ぎ、さらにその先の未来へ向けての一層の発展と進化を目指すために、微力ながら全力を尽くす所存です。

化学研究所の100年に届こうとする長い歴史や現在の多様な先進的研究の数多くの成果は、これまでの挨拶や寄稿文で既に紹介してきました。そこで今回の広報誌「黄檗」では、就任後2か月経っての現状と今後について少し書いてみたいと思います。

4月の所長就任時に所信表明を行い、化研を「化学者の楽園にしたい」という希望と「今までの制度や慣習を少し見直し、組織や活動をシンプルにしたい」という実務目標を述べさせていただきました。化学研究所で現在活躍している教職員の皆さん、そして卒業生の多くが「化研は素晴らしい研究所だ」と言われます。実

際に私もそのように思います。そうだとすれば、今後も化研が多くの人にとって素晴らしい研究所であり続けることこそが楽園となることへと繋がるはずですが、当たり前ながら、将来に向けても化研が素晴らしい研究所であり続けるためには、絶え間ない変革と進化が必要となってきます。そのために最も大切なものは、やはり「人」であり、楽園も組織づくりでありながら、結局はそこに集う人材に尽きます。優秀な人材を発掘して登用する、そして有望な若手人材を育成することが最も重要です。現在、化学研究所では研究室を主宰する教授ポストの幾つかが空席となっています。そこで、このようなポストに対し、将来の化学研究所を担い、化研のみならず、未来の科学技術を先導するような人事を始める準備を開始しました。

一方で、京都大学は今年度、国際卓越研究大学に再申請を行うことを決定し、本

部は大学全体の組織改革を構想しています。これは、これまでの京都大学の研究システムを大きく変革しようとするものであり、ある意味、日本の大学制度の将来あるべき姿を問おうとしています。京都大学の一組織である化学研究所も、例外なくこの組織変革の荒波にまわられていくことになります。そのような中でも、研究者が誇りと自信を持って楽しく研究できる環境を作り上げていくことを、一つ上の視点からも考えて行こうと思っています。

「組織や活動をシンプルにする」という実務目標は、思っていた以上に大変な作業です。これまでの研究所の活動や生活の中で、もっと便利で快適な環境を構成員の皆さんに提供したいと単純に思っていたのですが、いろいろなものを変えようすると、多くの過去の事例や規程とぶつかります。

おそらくほとんどの方が「変えた方がいい」と同意してくださることで、即実行とはならないもどかしさを痛感しています。それでも、所内連絡会のオンライン化など、幾つかの新しい試みも何とか始めることができるようになりました。協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。

この所内環境再整備を進めるに当たり、まずは所内の現状を知るためにいろいろな人と議論する機会を持つようにしてきました。そうすると、実は、所内にこれまで関わりを持つ機会がなかった人が相当数いることに驚きました。「化研は多様な分野を擁する」と所信表明でも述べながら、その実態をきちんと把握しておらず、自分の専門とは異なる領域の研究者やそれを支える人々とこれまで

ちゃんと話ができている方も多くいますので、引き続き、多くの人と議論する機会を積極的に設けて行こうと思っています。

所長就任からあつという間に2か月がたっしまいました。会議主宰や本部との連携、事務部門とのやり取りなど、まだまだ至らない点が数多くありますが、栗原達夫教授、寺西利治教授の両副所長、小野輝男教授国際共同研究ステーション長と共に新しい体制で研究と研究所の一層の発展と進化を目指していきます。化学研究所での研究や生活が楽しく実りあるものとなるよう、所属する教職員ならびに学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2024年5月 島川 祐一



島川 祐一 略歴  
1985年 京都大学 理学部 卒業  
1987年 京都大学 大学院 理学研究科 修士課程（化学専攻）修了  
1987年 日本電気株式会社 基礎研究所  
1993年 京都大学 博士（理学）取得  
2003年 京都大学 化学研究所 教授

### 化学研究所副所長・国際共同研究ステーション長 紹介



化学研究所  
副所長

教授 栗原 達夫

教授 寺西 利治

国際共同研究  
ステーション長

教授 小野 輝男

### 国際共同利用・共同研究拠点 令和6年度 採択課題決定

令和6年度採択課題（計137件）が決定しました。

分野選択型 発展的課題	分野選択型 萌芽的課題	課題提案型 発展的課題	課題提案型 萌芽的課題	施設・機器 利用型課題	連携・融合 促進型課題
国内…22件 国外…29件	国内…22件 国外…7件	国内…9件 国外…21件	国内…10件 国外…5件	国内…6件 国外…4件	国内…1件 国外…1件



COVER  
研究ハイライト  
「微生物機能発現のメカニズム解明と応用」より